

7月 3日（日） ショートメッセージ

聖書 マタイによる福音書 16章 1節～12節 （新約 31頁）

メッセージ 「注意しなさい」

イエスは彼らに、「ファリサイ派とサドカイ派の人々のパン種によく注意しなさい」と言われた。（マタイによる福音書 16章6節）

（1）ファリサイ派とサドカイ派の人たちが、イエス様のところに来ました。彼らはイエス様を試そうとして、天からのしるしを見せてくださいと頼みます。しかしイエス様は、よこしまで退廃的な時代の者たちはしるしを求めるが、「ヨナのしるし」のほかには、しるしは与えられないと言ってそれを断ります。おそらく、天からのしるしを示しても、彼らのイエス様への反感は変わらなかったでしょう。なお、2節～3節は後代の加筆と言われています。また、この「人々はしるしを欲しがる」の記事は2月6日に取り上げた12章33節～42節とメッセージが重なります。

（2）その後、イエス様と弟子は湖の向こう岸に行きましたが、弟子たちはパンを忘れてきたことに気付きました。そのことを気にしていたのでしょうか、「ファリサイ派とサドカイ派の人々のパン種によく注意しなさい」とのイエス様の言葉を、パンを忘れた事について言われたのだと弟子たちは勘違いしました。どこでパン種を調達したらいいのだろうかと論じ合っていたのかもかもしれません。すると、イエス様は弟子たちを厳しく注意しました。信仰の薄い者たちよ、なぜ的外れなことで論じあっているのか。まだ分からないのか。覚えていないのか。苛立ちながらイエス様は、弟子たちにパンの奇跡について思い出すよう促します。わずかなパンを五千人、また四千人の群衆と分かち合った時、皆が満腹したあと

たくさんの残りは幾籠になったか。私はパンが無いことを言っているのでは無い。ファリサイ派とサドカイ派の人々のパン種に注意しなさい。イエス様の厳しい言葉を聞いて、ようやく弟子たちはイエス様がおっしゃったことの意味を悟りました。パン種ではなく教えのことを言われたのです。同じ記事であるマルコ福音書8章では、イエス様は弟子たちに「まだ悟らないのか」と言って記事が終わりますが、マタイでは弟子たちは悟ったと記されています。

（3）ファリサイ派のパン種を「独善的な自力救済主義」、サドカイ派のパン種を「儀式的宗教性とそれに立つ現実妥協主義」と説明した方があります。両派の特徴から導き出した説明です。私たちもこの両者のパン種には注意したいと願っています。

また、ファリサイ派は当時の中産階級に人気があり、サドカイ派は当時の祭司、貴族、実業家に多かったと言われています。両者の仲はあまり良くなかったようですが、世間的には人気のあった教えです。その両者が揃ってイエス様を試そうとしたのは、イエス様が庶民や差別されていた人たちに救いを告げ、支持されていたからでしょう。イエス様は、大きな影響力がある両者の教えに警戒するよう注意を促しました。群衆と共にパンを分かち合い、イエス様も弟子たちも群衆も皆満たされたあの喜びの出来事にこそ神の御心があると伝えておられるのです。（多田玲一牧師）